

くにたち しらべ



NO. 2

発行日 2008 年 2 月 21 日

編集＝くにたち図書館地域資料ボランティア

発行＝くにたち中央図書館

テーマ

『 国立の四季 』

「 国立の四季 」

東京都のほぼ中央に位置する国立市は、市の面積約8平方キロメートルの東京都でも2番目に規模の小さな都市です。生活環境、自然環境のスケールは小さく、バラエティーも少ないといえますが、小さいながらもさまざまな姿を見せる国立市の生活を、季節の移り変わりと共に考えてみましょう。

〔1〕 国立の風物詩

春・さくら 国立はさくらの多い街です。国立駅から南に約2キロの大学通りには200本余り、さくら通りにも約200本のさくらがあります。春には見事なトンネルとなり、多くの人を楽しませてくれます。しかし、市民に愛され、誇りとなっているさくらも樹齢が進み、環境の変化もあって近年傷みが目立つものも出てきました。そこで平成12(2000)年から、行政と市民が協力して「くにたち桜守」というボランティア組織ができました。小学生から年配の方まで多くの人に参加し、さくらの回復を目指す活動に取り組んでいます。



夏・朝顔市 文教都市国立にふさわしい夏の催しができないか、と平成元(1989)年に生まれたのが「くにたち朝顔市」です。7月初めの週末、大学通りには朝早くから赤、青、薄紫、白など色とりどりの鉢が並びます。4月初めに種をまき、大切に育てられた朝顔です。スタートの頃は他の地区で生産されたものもありましたが、平成4(1992)年からは、すべて地元産となりました。



秋・天下市 毎年11月3日の文化の日前後に行われている「天下市」(国立商業祭)は、昭和39(1964)年、国立商工会青年部の「天下に恥じない商人道を歩み、消費者と共にある商店街造り、消費者に支えられる商店造りに発展させよう」という発想をもとに開催されました。以来、天下市は国立市内の商業者が日頃の感謝の気持ちを込めて行う青空市として定着しています。

冬・イチョウのイルミネーション 国立のメインストリートの大学通りにはさくらだけでなく、イチョウも植えられています。秋になると葉が色づき、美しい景観を作り出してくれます。この葉が全部落ち、12月になると国立駅前のイチョウはクリスマスのイルミネーションが飾り付けられます。これは平成2(1990)年より始まり、今では8本の木に約200個の電球が取り付けられ、午後4時30分になると点滅をして幻想的な世界が広がり、冬の風物詩となっています。



[2] 国立の年中行事

年中行事は、時代の流れで形を変えても節目節目の行事として、現代社会の中に生き続けています。昔から伝えられてきた伝統行事だけでなく、新たに始められたものもあり、新旧二つの顔を持って発展してきた国立の姿を発見することができます。

- 1月 初詣……………元旦の午前零時、谷保天満宮の本殿の太鼓が大きく鳴り響き、初詣がはじまります。
ドンド焼き……………昭和52(1977)年に復活した正月の伝統行事、今では市内3ヶ所で行われています。
- 2月 節分の豆まき……………谷保天満宮の節分祭は、年間の祭事の中でもっともにぎやかなものです。
初午……………2月11日に青柳稲荷神社などで行われています。
- 3月 雛祭り……………春を代表する行事、桃の節句・女、子どもの節句です。
梅祭り……………約100本ある天満宮の梅も満開になり、昭和62(1987)年頃から行われるようになりました。
- 4月 さくらフェスティバル…市外からも多くの花見客が見物に訪れます。
花祭り……………釈迦誕生日を祝う仏教のお祭りです。
- 5月 端午の節句……………鯉のぼりや五月人形を飾り、男児の成長を祝う行事です。
- 6月 田植え正月……………田植えが終わると手伝ってくれた人々を招いて開かれた祝宴でした。
- 7月 くにたち朝顔市……………江戸情緒豊かな東京下町の伝統行事の多摩版として定着しています。
七夕……………各家庭だけでなく、幼稚園や保育園などで続けられています。
施餓鬼会 ……南養寺などでお盆の前に行われる法要です。
盆……………7月13日～15日に行われる先祖供養の行事ですが、地方では8月13日～15日に行われることが多いようです。
- 8月 盆踊り……………ほぼ全市内各地区、町内会ごとに開催され、市民に親しまれるイベントになっ

ています。

谷保天満宮夏祭り…かつては「風祭り」といわれ、雨風から農作物を守る願いを込めたものだそうです。

9月 青柳稻荷神社 例大祭…祭り当日午前中の神輿行列は今も盛大に行われます。

月見(十五夜)……………縁側の卓袱台や机にススキや団子を飾るものです。

谷保天満宮 例大祭……国立で最大規模の祭り、「獅子舞」を中心に、現在も盛大に行われています。

10月 収穫感謝祭……………「イノコボタモチ」などを味わう、旧村地区の農家に見られる行事です。

11月 庭燎祭……………「おかがら火」ともいわれ、天満宮の境内に大きな焚き火がたかれます。

秋の市民祭り(天下市)…大学通りのイチョウが色づき始める頃の祭りは市民にしっかり定着しています。

一橋大学祭(一橋祭)……………「天下市」と同時期の学園祭も国立の顔になっています。

農業展……………農産物の生産技術の向上を図ると共に、市民の都市農業への理解を深めるために昭和54(1973)年から開催されています。

七五三……………いつの時代も変わらぬ子供の成長を願う親の気持を表すものです。

犬鷲祭……………いわゆる「酉の市」の祭りです。

12月 クリスマス……………年末の行事として親しまれ、イルミネーションで飾る家庭もあります。

歳末行事……………新年を迎えるため、大掃除、もちつきなどが各家庭で行われ、しめ飾りなどの飾り物が国立や谷保の駅頭で販売されます。

参考文献

- 10/B1 国立市史 上、中、下 1988年 国立市編纂委員会/編
- 10/D4 企画展 くにたちの年中行事 四季の祈り<春から夏へ>
四季の祈り<秋から冬へ>2003年 くにたち郷土文化館/編
- 10/B1 わが町国立 1975年 原田 重久/著
- 10/B1 国立風土記 1967年 原田 重久/著
- 10/B1 国立歳時記 1969年 原田 重久/著
- 10/V6 くにたち 夏の風物詩 1993年 第5回くにたち朝顔市実行委員会/編
- 10/V6 タウン誌が見た！多摩いきいき商店街 1999年 西東京タウン誌・紙会/編
- 10/B0 あおぞら 国立の自然と文化 2002年 国立の自然と文化を守る会/編
- 10/Y3 私のくにたち花物語 1997年 澤 未知子/著
- 10/Q7 なずなの会 植物観察会の記録(平成9年～平成14年) 1993年 なずなの会/編
- 472/1 くにたち緑の交響楽 1990年 国立植物ガイドブック制作委員会/編